

# 議会の雰囲気は大いに変わりました

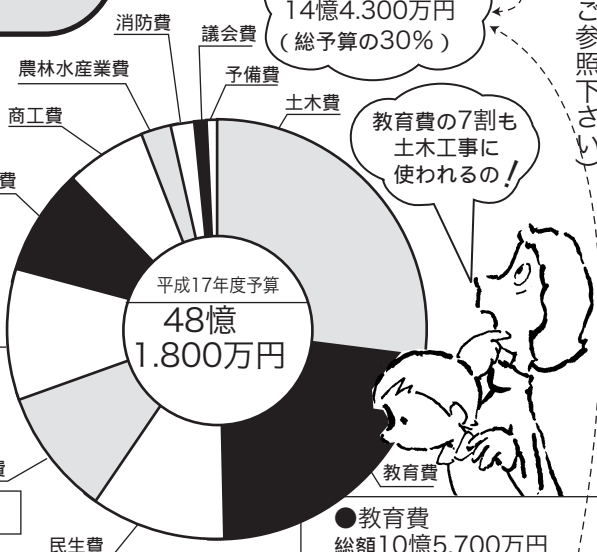
## 《教育や福祉の予算編成には敬意》

7年度予算審議の3月定例議会は、3月11日から13日の期間で開かれ、実質は初日(午前中)と最終日(午後1時から6時半)だけの議会開催でした。

樋口は、1項目の質問をしました。が、当局の回答に納得できず、「教育や福祉の予算編成には敬意を表するが、他は土木工事中心で村民不在の予算である」として反対しました。

4月1日の「広報」に予算の概要が掲載されましたので、その内訳詳細をお知らせします。皆さん、本当に「喜らしてよし」の予算なのか考えてみて下さい。)

●土木費 総額13億1,400万円  
花の都関係 8,100万円  
下水道特別会計へ 4億2,000万円  
調節池&排水路工事7億1,100万円



●商工費 総計3億5,900万円  
観光協会補助金 500万円  
観光特別会計へ 2億0,700万円

●衛生費 総額4億4,300万円  
簡易水道特別会計へ 7,400万円  
清掃費 2億7,600万円

●総務費 総額4億5,000万円  
人件費 3億円(総務・企画・税務・住民課分)

●公債費(借金返済)4億5,000万円

印の特別会計への繰出金は各会計の公債費(借金返済)に回るその合計=6億2,200万円  
一般会計からの実質借金返済金額 総合計=10億7,200万円 (全予算の22%)

土木工事・人件費・借金返済で全予算の70%を消費 (14.4億円)(8.6億円)(10.7億円) (33億7,000万円)

●民生費 総額5億1,000万円  
老人介護 1億 500万円  
児童福祉 2億 700万円  
保育所 1億6,000万円

●教育費 総額10億5,700万円  
交流プラザ工事 7億3,200万円  
文学の森 2,800万円  
小中学校費 8,800万円  
保健体育 8,200万円  
給食費 6,900万円

人件費の総額 = 8億6,300万円 (総予算の18%)

### 一般質問での主張と確認

一般質問は、高村高義議員、羽田正男議員、樋口が行いました。

樋口は「観光振興公社について」「交流プラザの今後について」「村長に質問。回答確認はつぎの通りです。」

●観光振興公社は、村と一体である。  
●最終責任体制は、公社は取締役会、役場は三役との回答。結局、公社の社長である「村長」が最終責任者であることを確認。  
●観光振興公社内の、選挙違反的行動や業務実績低迷の責任を明確にするよう

### 要求

●観光振興公社の職員は「準公務員という立場です」と村長が言明。そうであれば職員諸兄は、以後誇りと責任を持って、山中湖村の観光発展のために精励努力していただくよう期待します。

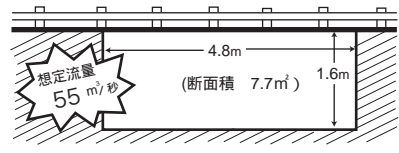
(この点、12月議会などでの総務課長の発言(「一般の会社と同じ扱い」「村は会社の中身を承知していない」)は、議会軽視であり、無責任発言である。要注意。  
●入会権侵害でありながら「粛々と交流プラザの工事を進める。法的根拠について回答を求めましたが、法的無知としか言いようのない答弁でした。  
●「天野惣吉氏との裁判を見極めたい」という最終答弁も、そうであれば工事を中断し見極めると言うのが「公正」と言うもので、事の重要性を本当に理解して

### センチ底下げの工事で

「起きますよ!」と迫る  
「思わず「村長、暴動が」  
一、の堀が国道138号線の下を通り湖に出る橋の架け替えと河川工事が行われます。  
1月8日臨時議会が招集され、工事代金追加の修正予算が審議されました。工事内容の説明を求めましたが理由がハッキリせず、普段水が一滴も流れていない川なので必要度も納得できるはずがなく、樋口は反対しましたが多数決で承認されました。

樋口は、独自に現地測量を行い次のことが判明しました。  
普段水が一滴も流れていない川の川を、災害時には1秒

国道138号線の橋-断面図



しかし、流速7m/秒で流量55/秒を満たすためには幅4.8mに対して高さは6m必要です。ところが現在の高さは1.6mですから、結局5m足りないこととなります。計算式は下の通りです。  
架空数値を想定して高さが5m足りないために、国道の通行を妨害し、橋を架け替え、仕上がり幅を4mに狭め、底を80cm下げてコンクリートの箱状の物をセットするとの事です。  
そのために8,800万円もの税金を使う工事請負契約承認の議案が3月議会に上程されました。

【断面積】 $5.5(m) \times 7(m) = 7.9(m^2)$ ..現在は7.7m<sup>2</sup>  
【必要高さ】 $7.9(m^2) \div 4.8(m) = 1.65(m)$

### 壁に耳あり正直な目あり

激しい選挙戦の後、新村長が就任してから早3ヶ月が過ぎました。全村民は、期待をもって新村長の行動を見つめています。開かれた村政、強い判断力と決断力は村民の願いです。ところが、村の執行責任者は三役+教育長ですが、最近では新六役(?)なる会議が頻繁に行われ、「山中湖村には村長が3人いる」などと囁かれたりもしています。

もっと驚くのは、議会が終わった夜に執行部と与党?議員が「反省会(打上げ)」と称し、某所で酒宴を開いた際、新六役メンバーの二人の課長も、肩を怒らせて堂々と同席しています。

昨今、村民の政治意識は高まり、新村長の「公正・公平」の政治信条、「若さと情熱」のキャッチフレーズは、看板どおりであるのか、村民は常に注視しています。「同級生」、「先輩・後輩」などの仲間政治、あるいは側近政治、果ては密室政治は権力腐敗の温床であり、村民の期待を裏切るものです。当然、職員一丸となって行政サービスを高めなければならない課題に対し、職務意欲を減退させる原因にもなりかねません。昔から「壁に耳あり障子に目あり」といいますが、村民の熱い期待を裏切らない

### 議会のテレビ放送「請願は、

「議会をテレビで放送して欲しい」と20代の青年たちが発議し、これに多数の村民が自主的に賛同して短期間で1600名近い署名を集めました。  
そして提出した請願が3月議会に上程され、議員全員の参加による「特別委員会」を設置し、放送内容、チェック方法などの細部を十分話し合うため、継続審議となりました。

同僚議員たちも「基本的に悪いことではない」との見解のようで、山中湖村の開かれた政治への大きな一歩が印されそうです。  
ちなみに23日最終日の傍聴は、朝8時半の受付開始と同時に満席(28人)となりました。

お気軽にご参加ください  
村議ひぐちの  
**3月定例議会の報告会**  
●4月13日(水)夜7:00から  
●山中公民館2階・会議室(山中郵便局の奥)